

ワークシートの活用と評価

元全国中学校社会科教育研究会会長 赤坂寅夫

その一 ワークシート活用の意義

前号の「トラの巻⑩ 板書の書き方とノート指導」の「その五 学習の記録をノートにするか、ワークシートにするか」ではワークシートについて簡潔にふれました。今回はそのワークシートについて詳しく扱います。

かつての社会科の授業でよく見られた好ましくない例があります。それは「穴埋め式のワークシート」です。授業の展開の中でキーワードとなる重要語句を空欄にして、その重要語句を教師が生徒に問いかけて空欄に記入させ、解説しながら授業を進めるためのワークシートです。基礎的・基本的知識の定着のために、キーワードを意識させ記憶させる作業として、穴埋めも生徒の実態に応じて必要な学習でもあり全否定はしません。

しかし、本来のワークシートを活用した学習活動は、図や資料等の教材を読み取り、それをもとに思考・判断し表現する活動です。ワークシートには、読み取った内容、思考・判断の内容や過程が記されているはずですが。現行学習指導要領で求められている言語活動の充実のため、さらにはこの先必要とされているアクティブ・ラーニングのためにもワークシートを活用した学習は重要性を増しています。

その二 ワークシートの種類とレベル

地理的分野の学習は2年間にわたるので、中学校に入学したての1学年1学期と2学年3学期とでは学力に大きな違いがあります。2年間の地理的分野の学習において、どのような知識・技能を身につけさせ、思考・判断・表現の力を向上させるか、スパイラルな指導計画・評価計画を作成しなければならないことは周知のことです。しかしこれらに対応したワークシートは考えられているのでしょうか。1学年1学期でいきなり思考・判断を問うワークシートであったり、2学年3学期に知識を確認する穴埋め式であったり資料の読み取りのみを問うワークシートであったり、発達段階を考慮しないものになってはいませんか。

地理的技能や地理的見方・考え方の発達を考慮すると、おおよそ以下のような段階が考えられます。

- A 略地図などの作図、雨温図の作成など単純な作業を行う。
- B 地図や写真、資料の読み取りを行い、わかったことを記入する。
- C 資料等の読み取りをもとに地理的見方・考え方を引き出す。あるいは地理的事象について自分の考えを記入する。
- D 自分の考えをグループや学級全体による討論をもとに深める。あるいは再構築する。

2年間の地理的分野の学習の中で学習活動がAからDへと深化し、作業や思考の段階が高まり、ワークシートに記入される内容も量



ポイント①

ワークシートは、資料を読み取り、思考・判断・表現する活動(ワーク)を記したもの

的質的に高まっていきます。それにとまってワークシートをA→B→C→Dへとスパイラルに質を高めていきます。ワークシートをA・B・C・Dそれぞれの段階のものを独立してつくることも考えられますが、実際は、AとB、BとC、CとDなど組み合わせたものが多くつくられ、その中で最も多くつくられるのがBとCを組み合わせたものでしょう。言語活動を充実させ、思考・判断・表現の能力を育成し、その能力の度合いを評価しようとする單元では、CとDを組み合わせたワークシートにするなどの工夫が必要です。



ポイント②

学習進度とレベルに合わせたワークシートをつくること

その三 地理的視点を示した作業

学習の最初は、世界や日本の略地図を描いたり、雨温図を作成したりという比較的単純な作業を取り入れることが多いと思います。地誌学習を行うようになって、そのような作業を行う時間がもたないと思う若い先生がいますが、「為すことによって学ぶ」＝体験によって学ぶことのほうが多いのです。

【略地図の場合】

○世界の略地図を描く→緯度0度（赤道）、経度0度（本初子午線）を記入する

○日本の略地図を描く→東経135度（日本標準時子午線）、東経130度、東経145度、北緯30度、北緯45度を記入する

●上記の作業後に、作業して気づいたこと、わかったことを記入する。

略地図を描く作業で、おおよその形や位置関係をつかむことができます。さらに下線部分の作業を加えることで、地理的視点に気づいたり、絶対的位置も把握したりすることができます。気づいたこと、わかったこととし

て、以下の点が記入されれば地理的視点が身についたといえます。

【世界】・本初子午線はイギリス、ヨーロッパ西部、アフリカ西部を通っている・赤道はアフリカ大陸中央部、マレー半島南端付近、南アメリカ大陸北部（アマゾン川河口付近）を通っている

【日本】・東西南北15度（ほぼ正方形）の中に日本列島の四つの大きな島が収まっている→標準時が一つですむ

1. 日本の略地図を記入しなさい。

2. 上の略地図に下の緯線・経線を記入しなさい。
 ・東経130度 ・東経135度 ・東経145度
 ・北緯30度 ・北緯45度

3. 2の作業をしてわかったことを記入しなさい。

図1 〈日本の略地図のワークシート〉

【雨温図の場合】

雨温図の場合も読み取りを行うだけでなく、実際に雨温図を作成したほうが、理解を深めることを「トラの巻⑤」で示しました。世界の気候区の学習に入る前に東京の雨温図を作成し、・最も気温が高い月は何月？・最も低い月は何月？・それぞれ何度？・年平均気温は？年降水量は？などから温帯である東京の気候の特色を具体的データでつかみます。

東京の特色をつかんだうえで、他の都市の雨温図を東京の雨温図の横に並べることで読み取りやすいようにし、やはり「東京の雨温図と比較して気づいたこと、わかったこと」を記入します。

例えば熱帯にあるバンコクの年降水量は東京より少し多い程度であり、このことから東京は世界でも降水量の多い都市であることに気づかせることで東京の特色がより明確になります。



ポイント③

単純作業に地理的視点を加えたワークシートを

その四 資料の読み取りから地理的見方・考え方を引き出すワークシート

地理の学習の場合、これは最も活用されるワークシートです。地図や写真資料、統計グラフの読み取りからわかったことを記入し、その地理的事象の背景・要因を考えることが地理の学習の基本です。この場合、

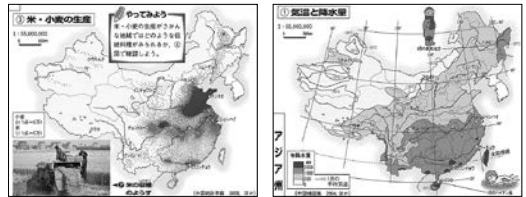
- a 一つの資料をじっくり読みとらせ、その背景・要因を考えさせる活動
- b 複数の資料を比較・関連させて読み取り、その背景・要因を考えさせる活動

が考えられますが、やはりbの活動とそのためのワークシートが多くなると思います。

例えば中国の農業の学習で、北部と南部の農業の違いを降水量との関連で見出させる場合、aは、中国の小麦と米の生産地域を示した地図のみから小麦→年降水量が少ない地域、米→年降水量が多い地域という関連を考えさせる学習です。bは、小麦と米の生産地域を示した地図と年降水量を示した地図を示し、二つの地図の比較・関連から米と小麦の生産地域と年降水量との関連を見出す学習です。aのほうが高度であり、bのほうが地理的見

方・考え方を引き出す学習です。これはアメリカ合衆国の農業地域と年降水量の関連を考える学習などにも応用できます。

1. 次の資料1・2を見て、わかったことを記入しなさい。



資料1 『中学校社会科地図』p.27
③米・小麦の生産

資料2 『中学校社会科地図』p.27
①気温と降水量

2. 資料1・2を関連させてわかったことを記入しなさい。

図2 〈比較・関連を読み取るワークシート〉



ポイント④

複数の資料の比較・関連から地理的見方・考え方を引き出すワークシートを

その五 見方・考え方を広めたり、考えを深めたりするワークシート

今、学校教育では言語活動を充実させ、思考・判断・表現の力を育成する学習が求められています。これまで述べたワークシートへの記入および発表も言語活動の充実につながるものです。しかし今後は、生徒個々の主体的な学習にとどまらず、生徒相互の協働的な学習による「深い学び、対話的な学び」が求められています。このために、「トラの巻⑩」で示したように下記のAからDまでの過程を記述するワークシートが必要と考えます。

- A 読み取ったことをもとにした自分の解釈・意見
- B グループで話し合っ得た解釈・意見
- C 学級全体で話し合っ得た解釈・意見
- D B・Cの話し合いを受けて再構築した自分の解釈・意見

この活動は話し合いに時間を要することから毎回はできませんが、生徒の思考のプロセスや学び合いの成果を評価するためにも年数回、とくに2学年後半では実施したいものです。

1. 次の資料1～3を見て、わかったことをそれぞれ記入しなさい。
2. 資料1～3を関連させてわかったことを記入しなさい。
3. 自分の考えをグループ内で発表し合い、気づいたこと・わかったことを記入しなさい。
4. グループでの意見を学級全体で話し合い、気づいたこと・わかったことを記入しなさい。
5. グループでの意見、学級全体の話し合いをふまえて、自分の考えを再構築しなさい。

資料1	資料2	資料3
1. わかったこと	1. わかったこと	1. わかったこと
2. 関連させてわかったこと		
3. グループで発表し合い、気づいたこと・わかったこと		
4. 学級全体で話し合い、気づいたこと・わかったこと		
5. 自分の考えの再構築		

図3 〈考えを広め、深めるワークシート〉



ポイント⑤

学び合い、深め合いを
評価するためのワークシートを

その六 ワークシートの評価

ワークシートは、いわゆるノートの的な役割とともに、前述したように学習活動のプロセスを記したものであり、育成しようとした力がきちんと身についているかを授業者が評価するためのものでもあります。その意味でワークシートは授業者にとって評価材料であり生徒にとって学習材でもあります。双方にとって大切なものですから、ワークシートの評価はていねいにしたいものです。ワーク

シートの評価の観点の以下に示します。

- ①作業
指示に従ってていねいに正確に作業している
- ②資料の読み取り
資料活用の技能の観点から、資料に示された事実・事象を地理的見方・考え方にもとづいてきちんと読み取っている
- ③自分の解釈・意見の記入
提示した課題に対して、あるいは資料から読み取ったことをもとにして自分の解釈・意見を述べている。またその根拠を示している
- ④自分の考えの再構築
他者の意見をふまえて、自分の解釈・考えを深めている

ワークシートの記入に際して、事前に評価の観点を明示するとともに学習の達成状況を段階的に示したルーブリック的な基準を生徒に示すことも生徒のはげみとなります。生徒が一生懸命記入したワークシートですから、ていねいに読み取るとともに、「トラの巻⑩」でも示したように、その成果を生徒に返してあげたいものです。

また、社会科のワークシートを3年間保管させ、1学年当初からの記述の変容を生徒自らに読み取らせることにより、3年間の成長の軌跡を自己評価するポートフォリオ的な評価をさせることも可能です。



ポイント⑥

観点と基準を明確に示し、
ていねいな評価を

最初に述べましたように、ワークシートは言語活動の充実やアクティブ・ラーニングのためにも活用されるものです。生徒の学習状況や学習過程が記録され、残されたものです。ワークシートの積み重ねが生徒の社会科学習の成長の証です。ワークシートの記述を読み取り評価する際には、目の前の1枚のワークシートを評価するだけでなく、積み重ねによる成長のプロセスも評価したいものです。